

里山倶楽部自然農場日記4月号 NO87

有機農業は本当に信頼できるのでしょうか？

先日野菜セットのお客様より、あるところで「なぜ虫は野菜を食べるのか」というお話を聞いたけど、鈴木さんの意見も聞きたいというご依頼がありました。今更ですが大事な事なので今一度私の考え、自然農場の目指している方向をお話します。

化学肥料、農薬、除草剤を使わなければ安全な野菜なのでしょうか？実はもう一つ考えなければならぬ大きな問題があるのです。

野菜が育つにはチッソ、リン酸、カリが必要です。これを肥料の三要素といいます。（私達EM自然農法ではあまりそんなことは意識しませんが・・・）特にN（チッソ）は重要でどの有機農家もいかにチッソを畑に投入するかに腐心しています。有機農業ではチッソ投入の材料として主に牛糞、豚糞、鶏糞等を使います。もちろんそれらの肥料は有機肥料で化学肥料ではありません。そのため有機農家は時として大量に畑に入れすぎる嫌いがあります。チッソが多いと色の濃い外見は立派な見栄えのする野菜ができます。逆に少ないと色が薄く形の小さい貧弱な野菜になります。農家は肥料をたくさん使うと安心するのです。それを私たちは肥料迷信とよんでいます。

ではなぜ大量に使いすぎると問題が起きるのでしょうか。野菜は必要でない余分なチッソ分までも吸収します。余分な窒素分は硝酸態チッソという形で野菜に残ります。その野菜を食べた人間の体内には硝酸態チッソが入ります。硝酸態チッソは発癌物質と言われ危険な物質に変わります。

またチッソ分が多い野菜はアンモニア臭がするのでその匂いが好きな害虫が寄って来る。世間では虫が付いている野菜は農薬を使っていない証拠だから安全だというのが、そうではない。虫のついている野菜はチッソ分が多いからで、そのような野菜は食べない方がいいのです。

さらに畑に上記の有機肥料を入れすぎるとそれが地中を通って、川に入り海に流れ着きます。窒素分の多い海はプランクトンが異常発生し赤潮となるのです。それらの危険性を認識している陸続きのヨーロッパでは有機肥料の投入にはきちんとした規制基準を作っていますが、日本は全くの野放し状態なのです。

だから日本の有機の作物が必ずしも安心安全な作物とはいえないのです。もちろん有機JASマークのついた野菜も同じです。JASマークがついているから安全だなんて思ってはなりません。ただ3年以上化学肥料、除草剤、農薬を使ってないというだけです。

では肥料をやらなければいいのでしょうか？でも「ことはそんなに単純ではない」のです。

申し訳ありませんが今回はここまで。次回にチツソ分を多く取り入れ過ぎた野菜をどのように見分けるのか。また「ことはそんなに単純ではない」という事の意味について書かせていただきます。

お客様の声

いつもありがとうございます。山芋で、がんもどきを作ろうと思っています。

(Kさま)

いつもありがとうございます。ハッサク美味しいです。1歳の娘と一緒に食べている時、種の形が小鳥に見えるようで「ピーピーちゃん」と喜んでいきます。美味しいだけでなく、楽しい時間になっています。

(Eさま)

たまちゃんのつぶやき

暖かくて晴れた日は山側をみると、かすんでいます。きっと花粉・・・私は花粉症ではないのですが見ているとなんとなく目がしょぼしょぼする気になってきます。人の生活様式の変化や色々な原因があるのですが、里山がきちんといかされることの大切さを思うこの頃です。昨日雨が降って・・・原木しいたけがニョキニョキでています。本当にニョキニョキ！！毎年50本ほどのほだぎに植菌をして順番に収穫できるようにしています。植菌して3年目くらいのものがよくでています。わたしはスライスして昆布と一緒に佃煮にしたりしますが、スライスして冷凍できるのでいため物等に少しずつ利用したりできます。

(3月10日)